

## 研究者としての夢に向けて —海外 PhD という選択肢— Pursue my dream as a researcher —choice of PhD in a western country—

°成田 海 (東工大院)

°Kai Narita (Tokyo Tech graduate school)

E-mail: kai.n.mm.science@gmail.com

### 1. 本講演の趣旨

PhD とは Doctor of Philosophy の略称で、日本でいういわゆる「博士号」のことである。2016 年秋から海外大学院に入学予定なのだが、PhD を日本から出て海外で取ることを決意した経緯、海外大学院受験までのプロセスが本講演の趣旨であり、進路の選択肢の一つとして参考にさせていただけると光栄である。

### 2. 海外 PhD を目指すことになった経緯 —研究者を目指すならどこが最適か?—

「人々の生活を変えるような、いまだかつてない材料を生み出す」。これが研究者としての私の夢である。それを本気で目指すならどこが最適か?—そう考えたとき、私にとっては海外 PhD がその答えであった。世界的に著名な教授の下で、潤沢な研究資金があり、世界各国から優秀な学生が集まる場所で研究をする。科学分野の共通語が英語である以上、英語を日々の生活から身に付けられるのも魅力である。しかしながら、私は学部 3 年時 (2012 年) まで海外に行ったこともなく、2012 年秋に受けた TOEIC が 500 点付近と英語力もなかった。そんな私が、実際に海外 PhD を目指すことを決意するきっかけ (東工大留学生の何気ない一言等) もお話しする予定である。

### 3. 海外大学院に合格するまでのプロセス —日本人の海外大学院受験における有利・不利—

日本人学生の一般認識以上に、世界規模でみると日本人は学力において優秀である。例えば、アメリカ大学院に出願するにあたり、ほぼ必ず受験しなければならない統一テストの GRE(Graduate Record Examination)の数学は日本の高校数学レベルである。また、欧米では、日本のように学部で研究経験を得られる学生は少ないし、これは出願において、非常に強いアピールとなる。では、何が日本人にとって海外大学院受験への障害になっているのか。それは情報量の少なさ、英語力、出願に必要な 3 通の推薦状、コネの少なさ、そして「何となく難しそう」という心理的障害ではないだろうか。これらを克服するために私が踏んだプロセスや経験を本講演ではお話しする。

### 4. 最後に

私は海外 PhD の道を選んだが、実際、日本が世界最先端をいく分野は多く存在し、何かを目指す上で最適な場所が日本である人も多いと思う。さらに日本から離れ海外 PhD を目指すのはある程度の苦労やリスクも伴うかもしれない。それでも、海外 PhD に興味を持ってくれる人がいるならば、東大から MIT にわたり現在 NASA で働く小野雅裕著の『宇宙を目指して海を渡る』(東洋経済新報社) や「米国大学院学生会」が主催する海外大学院留学生説明会を参考にさせていただきたい。海外 PhD についてより多くの情報を得られるはずである。